

# 公的資金注入の邦銀に対する介入効果

相馬利行<sup>1</sup>  
近畿大学経済学部

中島清貴<sup>2</sup>  
甲南大学経済学部

## 要旨

本稿の目的は、1998年3月の金融機能安定化法に基づく資本増強（第1回公的資金注入）と1999年3月以降の早期健全化法に基づく資本増強（第2回公的資金注入）の2つのケースにおいて、それぞれの公的資金注入の介入効果を見ることにある。本稿では特に、介入効果の推定を通じて、(1) 銀行の倒産確率、(2) 銀行貸出、(3) 銀行の中小企業貸出、(4) 銀行の資産収益率、(5) 銀行の不良債権比率の5つの金融変数が公的資金注入後にどう変化したのかを検証している。その結果、第1回の公的資金注入では、銀行そのものの倒産確率は低下したものの、貸出の増加を通じた実体経済への波及効果、銀行の資産収益率の上昇、およびその不良債権比率の低下にまではその効果が達しなかったことが観察され第2回の公的資金注入では、倒産確率の低下のみならず、貸出の増加を通じた経済への波及効果や銀行の資産収益率の上昇、およびその不良債権比率の低下をももたらしたことが観察された。

キーワード：公的資金注入，介入効果，倒産確率，銀行貸出，不良債権，  
JEL #: G01 G21 G28.

---

<sup>1</sup> Email : souma@kindai.ac.jp

<sup>2</sup> Email : kiyotaka@center.konan-u.ac.jp